

楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.78

日時	2014年2月5日
行脚先	松原八幡神社
住所	兵庫県姫路市白浜町(播磨国)
行事名	

特徴

「灘のけんか祭り」でも有名な神社です。

松原八幡神社は中殿に品陀和気命、左殿に息長足姫命、右殿に比大神、の御祭神を祀っています。

天平宝字7年(763年)4月11日、妻鹿の漁師が「八幡大菩薩」と書かれた霊木を拾い上げ、その霊木を祀ったことが起源とされています。

平安時代には松原荘が石清水八幡宮の社領となり、その別宮となりました。

応仁元年(1467年)、赤松氏は代々松原八幡神社を敬っており、大勢の僧兵を持つ松原八幡神社は山名氏と戦い、赤松氏の力になっていました。

そのため応仁の乱において、赤松氏と敵対する山名氏は松原八幡神社に火をつけ社殿を焼失させました。その後永禄元年(1558年)、赤松政則氏により再建されました。

天正元年(1573年)豊臣秀吉の三木合戦の際、別所長治により火を放たれました。

天正12年(1584年)、松原八幡神社の僧・快祐が社殿を復興しました。

黒田官兵衛との関わり

豊臣秀吉と毛利軍・別所長治の三木合戦では、松原八幡神社は双方から援軍を依頼されましたが選択できませんでした。

戦に勝利しこの地を平定した秀吉は、加勢をしなかったことを怒り、神社を芝原に移すよう命じました。

その際、松原八幡神社を敬う黒田官兵衛は松原の由緒を主張し、存続を嘆願しました。

その甲斐もあって、千石千貫あったと言われる社領を六十石に減らされながらも存続を許されました。

黒田官兵衛は天正12年(1584年)、松原八幡神社の僧・快祐が社殿を復興する際、拝殿を寄進したと伝えられています。

記録

